

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会

2023 年度第 2 回理事会 議事録

1. 日時

2024 年 1 月 14 日(日)15:00~18:35

2. 場所

Web 会議(zoom 使用)

3. 出席者

理事総数:20 名、出席理事 19 名(審議事項出席理事は 18 名)

理事長:山岸敬幸

副理事長:坂本喜三郎

出席理事:赤木禎治、犬塚亮、岩本眞理、大内秀雄、落合由恵、小野博、笠原真悟、城戸佐知子、金成海、鈴木孝明、須田憲治、瀧間浄宏、豊野学朋、中野俊秀、檜垣高史(報告事項から出席)、星合美奈子、増谷聡

欠席理事:三谷義英

出席監事:市田露子、河田政明、土井庄三郎

出席幹事:青木雅子、津村早苗、中川直美、永井礼子

4. 議長

理事長 山岸敬幸

5. 議事の経過の要領及びその結果

定刻となり定款第 26 条 3 項により山岸敬幸理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より本理事会は定款第 27 条 2 項の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨の報告があった。議長より、本理事会の議事録署名人として、大内理事と落合理事が選任された。

6. 前回議事録の確認 資料 1p.1

前回議事録への異議はなし。確定した議事録を速やかにホームページに掲載するよう指示があった。

7. 審議事項:

第 1 号議案:小児肺循環研究会の分科会取り下げについて(学術・犬塚理事)…… 資料 2 p.1

提案内容:日本小児肺循環研究会が日本肺高血圧・肺循環学会と統合することが決定した。これに伴い、日本小児肺循環研究会の分科会取り下げについて承認をお願いしたい。

土井監事より、日本肺高血圧・肺循環学会に統合後も日本小児肺循環研究会で行っていた活動を継続し、小児肺循環領域の演題も積極的に取りあげてもらう予定であることが説明された。

議決結果: 全員一致で承認された。

●専門医制度の単位について、分科会であれば 8 単位取得可能であったが、一般学会だと 3 単位、連携の強い一部の学会は 5 単位となる。日本肺高血圧・肺循環学会理事会、旧日本肺循環研究会幹事会等の要望は 5 単位だが、何単位とするかは審議が必要。専門医エリアの検討事項とする。

第 2 号議案: 学術集会運営マニュアルの修正について(学術・犬塚理事) …… 資料 2 p.14

提案内容: 学術集会のテーマ・コーディネーター・サブコーディネーターの決定について、現行のプロセスを簡略化し、理事会承認を不要として学術委員会で承認される形式にしたい。

議決結果: 全員一致で承認された。

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容

- ① 笠原理事より: コーディネーター、サブコーディネーターが学術集会支援に重要な役割を果たすが、継続審議のためにも任期を長くすべきではないか。また、コーディネーターは年長者、サブコーディネーターは若手を選出し、サブコーディネーターがコーディネーターに上がるという前提でやると継続性が出て良いのではないか。
- ② 鈴木理事より: このプロセスだけが問題で時間を要しているとは思えない。誰が連絡をして誰が学術集会の会長に話を降ろすのか明確にしておくべきではないか。
- ③ 大内理事より: コーディネーター、サブコーディネーターの選出について基準はあるか。
- ④ 瀧間理事より: マニュアルに期日を盛り込めば、事務も把握することになるため明確になるのではないか。

上記に対する説明

- ① 長期企画に関しては同じメンバーが選ばれているはずであるが、それを任期延長という形にすべきか再任という形にすべきか検討する。
土井監事より: 過去にコーディネーター・サブコーディネーターの選出には理事会が関わった方が良くとの意見が出て関わった経緯がある。現在は選出で問題になることはないと考えられるが、コーディネーターとしての資質などを加味して選出する必要がある。
- ② 学術集会支援委員会には学術集会会長の施設の会員も参加し、情報は共有されることになっている。前回の学術集会では何が原因で共有できていなかったか、確認を行う。
- ③ 基準として明確なものはないが、学術委員会委員十数人のチェックが入ることにはなっている。何人どのように決められたかは明確にしてもよいかもしれない。
- ④ コロナ禍だったため期日をマニュアルに組み込めなかったという経緯がある。期日はマニュアルには載っていないが、スケジュールには載っている。将来的にはマニュアルと統合されるとよいかもしれない。

第 3 号議案: 課題 B の申請期間の変更について(学術・犬塚理事) …… 資料 2 p.14

提案内容:研究課題 B について、公募期間を限定せず、いつでも応募でき、随時審査としたい。

議決結果:全員一致で承認された。

第 4 号議案:学会へ返納された研究資金の取り扱いについて(学術・犬塚理事)資料 2 p.14

提案内容:「本邦における Fontan 術後臨床事故の現状把握と治療・管理法の確立を目指した前向きコホート」において、2018 年に当時の規定に沿って返金された 84 万円を、現行の学術委員会研究委員会経費補助規定(2022 年 1 月改定、次年度への繰り越しが認められた)に沿って研究費として戻すことを承認いただきたい。

●研究資金を使用できる期間はどうか?→研究終了期間までは使用できる。研究期間は延長申請することも可能だが、進捗のないものは打ち切りとなり、その時点で 300 万円使い切っていない場合は返金することになる。

議決結果:本申請研究の研究代表者である大内理事を除く 17 名で協議し、全員一致で承認された。

第 5 号議案:AHA・WCPCCS 2025 Presentation Award について(渉外・三谷理事不在のため赤木理事より)……………資料 2 p.22

提案内容:AHA と WCPCCS への若手の参加を支援するため Award を設けたい。

議決結果:全員一致で承認された。

第 6 号議案:米国学会での現地ミーティング参加に係る出張旅費について(HBD・山岸理事長、金理事)……………資料 2 p.27

提案内容:HBD for Children の活動として、米国学会での face-to-face ミーティングに係る出張旅費を、昨年度と同様の予算案で承認いただきたい。

●HBD for Children の活動として AMED を獲得しているが、その資金だけではカバーできないため、学会を主体とした資金援助を求め、補助として AMED や共催の資金を使いたい。

議決結果:全員一致で承認された

第 7 号議案:学術集会中の Town Hall Meeting の非会員への旅費について(HBD・山岸理事長、金理事)……………資料 2 p.27

提案内容:Town Hall Meeting への招請講演者の出張旅費と謝金を正式に予算枠として設けてほしい。

議決結果:全員一致で承認された。

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容

- ① 学会から重要な人物を招請する際、デバイス承認等も関わるため企業が強く関与するケースが多い。企業主催と呼ぶのではなく、企業から寄付をいただき、あくまでも学会が招請するという公的な形式にできないか。

② 具体的な予算額はどうか。毎年の予算なのか。

上記に対する説明

- ① そのようにしたいと考えており、そのために今回の予算枠が必要となる。企業には賛助会員となってもらうことを勧める。
- ② まず単発での予算を考えている。3月末に具体的な予算を試算し、具体的な予算が決まり次第、満額を予算に組み込むか一部にするか議論して学会に予算申請したい。

第 8 号議案:第 14 期専門医試験の試験結果の認定について (専門医・増谷理事)資料 2 p.28

提案内容:第 14 期専門医試験の結果、合格者を認定した。理事会承認をいただきたい。

●合格率は 83%で例年通り。面接での不合格者はいなかった。

議決結果:全員一致で承認された。

第 9 号議案:機構認定後の小児循環器専門医研修単位について (専門医・増谷理事)資料 2 p.29

提案内容:機構認定後の小児循環器専門医更新単位のあり方を日本小児科学会と同様の枠組みにすることを承認いただきたい。ただし、現時点では機構認定時期および本件施行時期は未定。

議決結果:全員一致で承認された

第 10 号議案:利益相反自己申告書の電子化について(医療安全/倫理・鈴木理事)資料 2 p.31

提案内容:現行、紙ベースで行われている役員の利益相反自己申告をオンラインに切り替えたい。

議決結果:全員一致で承認された(ただし、予算条件付き)。

本議案についての議論を以下に別添としてまとめる。

提議内容

●委託候補のイーピーエス株式会社を選択すると初期費用 400 万、月 11 万の運用コストが試算されているが、かなり高額ではないか。初期費用 30~50 万、月 1 万くらいが妥当ではないか。

上記に対する説明

●金額は COI を申告する人数でも変わると思われ、交渉の余地はある。現在は人件費+紙代+保管コストがかかっている。電子化した場合の予算と利便性を算出し再検討したい。

第 11 号議案:賛助会員の募集について(未来予想図・小野理事)……………資料 2 p.32

提案内容:賛助会員を増やすため、入会のメリットとして日本小児循環器学会ホームページへのバナー広告掲載という特典を付けて募集できるようにしたい。

議決結果:全員一致で承認された。

第 12 号議案:軟質実物大 3D 心臓モデルの保険適用に関する要望書(未来予想図・山岸理事長) 資料 2 p.37

提案内容:3D 心臓モデルの保険適用に関する要望書を学会から提出したい。

議決結果:全員一致で承認された

第 13 号議案:2027 年学術集会会長の選出(未来予想図・山岸理事長)…… 資料 2 p.61

提案内容:2027 年学術集会会長として、笠原理事から立候補があり、承認いただきたい。

●2027 年は外科系会長の年、JCK 開催予定の年。

●笠原理事より学術集会会長立候補のプレゼンテーションをいただいた。

議決結果:立候補者である笠原理事を除く 17 名で協議し、全員一致で承認された

・その他

●令和 6 年能登半島地震について

山岸理事長より、ホームページおよびニュースメールにも掲載の通り、令和 6 年能登半島地震の犠牲になられた方々へはお悔やみを、被災された方々へはお見舞いを申し上げ、学会として協力できることをしていく意向が伝えられた。

小野理事より、日本小児科学会の災害関連意見交換会では、日本産婦人科学会が取りまとめる大規模災害対策情報システム(PEACE)を通じて、要望があれば各学会に連絡が行くことになっており、本学会でも要望が来れば対応することになっているとの報告があった。

●修練施設群の文言について

現在、修練施設群を「互いに接する都道府県」で構成するという表現になっているが、厳密には接していない都道府県で構成されることもあるため、「近接する」という表現に変えたい意向が示された。反対の意見は確認されなかったが、山岸理事長より、規約の改訂になるため、修練施設群の文言を次回理事会の審議事項として提出するよう指示があった。

●教育セミナーの講師の参加費徴収について

次回(本年 2 月)の教育セミナー Advanced Course で、講師からも参加費を徴収する件について疑問が呈された。

セミナーでは企業からの協賛を得ることが難しく、予算がかなり限られるという現状がある。

ウェブ開催のみにしたり、冊子を印刷せず PDF にしたりすることで予算は抑えられる。また、ウェブ開催の方が参加しやすいと考える会員もいる。今後、ウェブ開催に統一するのか、主催者の判断に任せるのかなど、学術委員会で検討することとなった。

8. 報告事項

◆理事長報告(山岸敬幸理事長)

1. 持ち回り理事会・要望書提出状況【資料 3】p.63-76.

- ワーファリン顆粒 0.2%にかかる継続要望書(p.64)、シンフォリオムの早期保険償還を求め
る要望書(p.75)、専門医等人材育成に関わる要望書(p.65)、を提出した。

◆会長報告

1. 第 60 回学術集会準備報告(須田憲治大会長)

- 長期企画と短期企画 19 企画、委員会企画 11 シンポジウムが入り、総数 30 企画となる。全企画を採択する方向であるが、今後は会場関係などから企画総数を制御できないか検討する必要がある。
- 学術集会として SNS(X、インスタなど)を使用し、学術集会として発信したいと考えている。
- 山岸理事長:広報委員会で SNS 発信しているが、書き込みによる弊害があり削除した経緯がある。SNS 使用にあたっては適正に運用できるよう対応していただきたい。
- SNS による発信について、異論なく賛同を得た。
- 犬塚理事:連携が足りないという意見があったが第 60 回はどうか。
- 須田大会長:現在は演者座長の重なりの見極め中である。演題投稿後の確認も必要である。学術集会として入るべき情報は入っており、事務局リネージュにも協力していただいている。
- 須田大会長:委員会企画は、学術集会支援委員会が取りまとめることになっているが、選定することは難しいと思われる。成人先天性心疾患学会と比較すると、約 3 倍の企画数を約 2 日半で開催することになるため、企画は同時に並行して開催となることをご理解いただきたい。
- 山岸理事長:委員会企画の選定は今後必要であると思われる。毎回すべての委員会企画を採択することは困難と思われる。日本小児科学会ではプログラム委員の投票で決定されている。

以下、JCK 関連や教育セミナーなどの開催方法、参加関連費用について意見交換があった。

- 須田大会長:JCK関連では韓国からリストが提出され、中国とのコンタクトを取り始めている。決定すれば他国との連絡を開始していく。その後、学術支援委員会に報告する。
- 山岸理事長:招聘費や宿泊費の問題はある。セミナー等の場合は、学会よりもさらに支出は難しいと思われる。
- 中川幹事:コスパやタイパの考え方も考慮する必要がある。若手の世代の、自己勉強に費やすお金や時間についての考え方や、何を求めているかをわかる必要もある。
- 金理事:教育セミナー Advanced course などは、Web 開催するなど方法を決めてもよいと思われる。勉強会と考えると Web が望ましい。
- 増谷理事:主催者が開催方法を決めることにしておくのが良いと考える。
- 星合理事:コロナ禍では Web を想定していた。参加側のことを考えると、より多くの参加が可能になるため、勉強会は Web 開催もよい。
- 豊野理事:参加者 200 名、参加費 2 万円、計 400 万を想定して開始している。講師関連の費

用等は後日返還も考えていると思われる。

- 山岸理事長: 学術委員会で検討していただき、次回理事会で提案していただく。

◆各エリア委員会報告

- 学術エリア 主: 犬塚理事、副・豊野理事、中野理事

- 学術委員会 (犬塚亮委員長) 犬塚理事から【資料 4】p.77-83.

- 三カ国フォーラム(2024/7)開催・準備:

学術集会支援委員会から、日本側の座長、口演者をテーマごとに決定する。既に選出しているコーディネーター、サブコーディネーターに、1月下旬締め切りで企画を依頼している。

- 日本小児肺循環研究会の日本肺高血圧・肺循環学会への統合:

日本肺高血圧・肺循環学会における日本小児循環器学会とのジョイントセッションを設置する方向で、MOU を締結する。

- 外科系教育委員会: 過去のセミナー動画の HP 掲載:

手術動画を HP で掲載することに当たって、手術動画がどのような要件を満たすべきか(匿名性の担保、同意方法、利用目的など)について、外科系教育委員会で検討する。

山岸理事長: 今後、次世代育成プログラムにおける、ビデオ審査でも同様の検討が必要な事項である。顧問弁護士にも相談している。

中野理事: 各施設での取り扱いも異なるため、学会の指針を示していただき、各施設で対応していく。外科系セミナーアーカイブや次世代育成プログラムにおいて手術動画は必要であり、慎重に進めていく案件である。

- 顕彰委員会: 宮田賞の受賞回数について:

現在の宮田賞の応募要項には受賞回数について規定はない。現在まで 2 回受賞した者が存在するが、今後宮田賞奨励金の増額の可能性も含め、受賞回数の規定を入れることを審議。宮田財団に設立の意図を確認し、2025 年の募集および選考方向について再度検討する。

- 小児心不全薬物治療ガイドラインの改訂について

武田充人班長より、MINDs 準拠のガイドラインは作成困難であるためステートメントとして改訂する方針となった。

豊野理事: 予定メンバーとガイドライン委員会の担当委員にて初回ミーティングが開催され、疾患毎の構成にする案もある。

- 赤木理事: JCK3 か国フォーラム、中国がキャンセルになる場合も想定される。ワールドコンGRESは、外科系にはアプローチがあったか。

山岸理事長: ワールドコンGRESからは個人的なアプローチがあった。しかるべき時期に、本学会からの参加人数・内容等を把握することが必要。2025 年 12 月開催予定である。

- 内科系教育委員会(先崎秀明委員長) 犬塚理事から

- データベース小委員会(関満委員長) 犬塚理事から【資料 4】p.84

- 2022 年分の小児期発生心疾患実態調査のデータが全施設から入力終了した。現在、データのエラーチェックを行っており、年内の報告書作成を目指している。データ二次利用申請：大阪大学・石田秀和先生：急性心筋炎、慢性心筋炎の施設データ、中西敏雄先生：疾患登録数使用の申請は、許可としている。
- 外科系教育委員会(櫻井一委員長)
【資料 3】p.85.参照
- 形態登録小委員会(稲井慶委員長)
【資料 4】p.87.参照
- 研究委員会(新居正基委員長) 犬塚理事から
【資料 4】p.88.参照
- 遺伝子疫学小委員会(高月晋一委員長) 犬塚理事から
- ガイドライン委員会(横山詩子委員長) 犬塚理事から
【資料 4】p.90.参照
- 学術集会支援委員会(早淵康信委員長) 犬塚理事から
- ジョイントセッション委員会(石川友一委員長) 犬塚理事から
- 顕彰委員会(小垣滋豊委員長) 犬塚理事から
【資料 4】p.91.参照
- 渉外エリア:主・三谷理事、副・赤木理事
 - 渉外委員会(三谷義英委員長) 三谷理事
- 次世代エリア
 - 次世代育成委員会(中野俊秀委員長) 中野理事から 【資料 4】p.92
 - 提言の内容を実行に移すことを目的に、生涯育成プログラム小委員会と地域拠点化小委員会に分かれて活動している。
 - 育成プログラムは、4 月運用を目指しており、1 月 15 日から施設の申請と指導員の申請受付開始となる。4 月から、修練医の申請を開始し、条件が備わった施設から開始する。当初の予定通りに進められている。
 - あけみちゃん基金について

先天性心疾患を持つ子どもたちを救うために、1966年に産経新聞社バックアップのもと設立された基金である。海外支援では、ミャンマーのプロジェクトが最も大きかったが、数年前からミャンマープロジェクトは無くなっており、この度国内支援に還元し、6台の EXCOR を寄贈することができた。2022年に基金の運営委員長に就任された東京女子医科大学・新浪先生より、国際支援資金を次世代の小児心臓血管外科医の育成に運用する提案をいただいた。産経新聞社とも話し合い、基金を本学会に援助したいとの意向を受けた。本学会理事長・副理事長にお話しは預けており、活用性の方針を決めることになる。

・小児心臓血管外科医生涯育成プログラム小委員会(松久弘典委員長)

【資料4】p.94.参照

・地域拠点化小委員会(瀧間浄宏委員長) 瀧間理事から【資料4】p.95.

- 地域拠点化小委員会では、2024年に開始予定の小児心臓血管外科 地域グループミーティングに向けて、地域拠点化小委員会(10/16)、CHSS Japan 及び、日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会の小児心臓外科 理事メンバーとの合同委員会(12/11)等を開催し、グループミーティングの議長役を担うまとめ役を日本小児循環器学会、日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会の小児心臓血管外科医 8名の理事が就任する。
- 事前調査の内容(案)も変更を考え、3年後の各施設の小児心臓手術についての見通しも含める。グループ割り調整、まとめ役の担当理事の調整を行い、再度小委員会で案を練ったのちグループミーティング開催の方向である。

・多領域専門職委員会(仁尾かおり委員長) 落合理事から【当日追加資料参照】

- Web セミナー「多領域ミニカンファレンス」:第 11 回 2023 年 12 月 12 日(火)「小児の心筋症と看護」開催
- 第 60 回小循環学術集會に 3 企画と委員会企画を申請した。演題登録数増加、参加者増加を目指した活動として、学術集會ポスターを看護系大学および臨床工学技士養成校への郵送による広報を依頼した。
- ミニカンファレンスとオンデマンド配信:①多領域ミニカンファレンスは事務局が正常に機能するまで無期限延期とする。②オンデマンド配信は、事務局により是非とも従来からの依頼内容の通りに早急に開始していただく。
- 日本小児循環器学会誌投稿支援:第 59 回学術集會より 1 演題を投稿支援対象として推薦しており、編集室からの手続き中である。

・働き方改革委員会(武田充人委員長) 岩本理事から

- 第 60 回学術集會で、働き方改革の方策が先行している施設を中心に報告していく。

● 専門医制度エリア

・専門医制度・認定委員会(増谷聡委員長) 増谷理事から【資料4】p.99

- 修練施設(群)の2023年度申請と、2021-2022年度申請について書類審査を行った。訂正を要する書類不備は訂正をお願いし、最終的に申請された施設について認定できる見込みである。
- 専門医申請システムについて、今後の検討課題とする方針とした。新たな取り組みに移行する場合の事務局負担、各年の受験者数が30-40名程度であり、申請システムへの移行に直近の effort・費用を費やすのは得策ではないと考えた。機構認定の新専門医制度への移行と、現行制度の維持・遂行に注力する。
- 修練施設群について、修練施設群の合同症例検討会又は学術講演会等を1年に10回以上開催する。という条項について、(ただし、新型コロナウイルス感染対策のため、2020年~2022年度については、年間3回以上とする。)という例外規定は2023年度までで終了し、2024年度からは従来の10回以上に戻すこととした。
- 修練施設(群)の申請は各施設で書類をPDF化して、事務局にはファイルアップロードによる提出とする。
- 日本周術期経食道心エコー認定試験の試験委員派遣依頼があり、前田潤先生、新居正基先生、武井黄太先生を、理事長承認を経て、小児循環器学会として推薦した。

・地方会等認定委員会(増谷聡委員長)

- 地方会認定委員会:地方会41中、34施設(83%)から回答を得た。参加費を徴収していない地方会が2つあり、地方会の規則に反するため、改善もしくは認定不可となる可能性がある。地方会の単位について、地方会として続けていける方向で検討している。次期理事会で規則の改定案を提出したい。

・専門医試験委員会(平田陽一郎委員長) 増谷理事から【資料4】p.99

- 第15期(2024年)の専門医試験方法について、コロナ禍以前のように筆記試験・口頭試験ともに、同一会場・同一日時(順天堂大学)で開催することを決議した。2024年11月3日に施行する。今回の試験問題のうち2問は不適切問題であり、全員に点数を付与した。

・専門医カリキュラム委員会(麻生健太郎委員長) 増谷理事から

● 学術誌エリア

・和文誌編集委員会(高橋健委員長) 大内理事から【資料】参照

- 投稿数は、原著だけでなくケースレポート投稿数の減少傾向にある(原著1、総説7、症例報告1、その他0)。アイデアを出して何とかしたいと考えている。

・英文誌編集委員会(上村秀樹委員長) 大内理事から

- 投稿規定に関する第2回目の改訂案(編集委員会での作業はすでに完了)につき、オーストラリ

アのコンサルティング会社が査定し1月 15 日に結果が報告された。若干の変更事項が指摘され、国際文献社が対処する旨の連絡あり。予定通り、3 月上旬に第 3 回目の査定結果が用意される見込み。(英文学術雑誌編集委員会報告書 訂正 再提出)

•論文の書き方のコツや統計などの話を聞く企画を考えており、若手の登壇も検討している。

● 社会制度エリア

・移植委員会(福嶋教偉委員長) 笠原理事、鈴木理事から【資料 4】p.101-111,

•JCCN のワーキンググループが開催された。PICU 医師も参加している。

•VAD 協議会・心臓移植・心肺同時移植関連学会協議会(鈴木理事)

•障害者認定について:VAD 装着患者の等級取り扱いについて、VAD 協議会から厚労省に相談している。

•VAD 実施医申請基準が新しくなっている。VAD 協議会 HP を参照されたい。

•植え込み VAD の実施施設認定基準と地方厚生局の施設基準の乖離があるため、厚労省保険局に申し入れをしている。

•心臓移植・心肺同時移植関連学会協議会:埼玉医科大学国際医療センターの小児心臓移植実施施設について、認定の報告があった。

•成人心臓移植実施施設認定審査が進行中で、愛媛大学にサイトビジットを実施することとなった。

•今年は、小児心臓移植実施施設認定の申請の年である。詳しくは、ウェブを参照されたい。

・小児慢性・難病対策委員会(檜垣高史委員長) 檜垣理事から
学術集会に、委員会企画として提案

・蘇生科学教育委員会(太田邦雄委員長) 檜垣理事から【資料 4】p.112

•PUSH プロジェクトを進めていく。2023 年 11 月 8 日(水)愛媛県南予で開催の学校救急シミュレーションに委員会として協力した。

•過去 2 回の地域の学校をモデルとした企画は、HP にアップし、救急シミュレーションを広めていくようにしていきたい。学校と教育の連携委員会とも合同で、家族や教育委員会、一般向けのホームページに反映させていきたい。

1・学校心臓検診委員会(岩本眞理委員長) 岩本理事から

小児循環器医療 DX 推進ワーキング(三谷義英委員長)との合同セッション企画中:(資料1):学校心臓検診のデジタル化に向けて、行政、企業、医療とで議論する。

・移行医療委員会(落合亮太委員長) 城戸理事から

・学校と教育の連携委員会(内田敬子委員長) 檜垣理事から【資料 4】p.113

•第 71 回日本小児保健協会学術集会(2024/6/21-23)に、小児循環器に内容をフォーカスし、いのちの授業を通じた医療と教育の連携推進をテーマとするシンポジウムを企画する方針が決

定。

- 第 60 回日本小児循環器学会(2024/7/11-13)に委員会企画で、心臓移植を主なテーマとした連携した授業を紹介し、その可能性についてパネルディスカッションで議論する。
- 赤木理事:重症患者の感染に関しては、全体の 54%が先天性心疾患であり、重症患者に関わるため PICU、救命救急の先生方にもお話しいただく。

● 保険診療/臨床試験エリア 金理事から

・保険診療委員会(小野博委員長)【資料 4】p.114

- 2024 年度診療報酬改定関連:最終提案書を作成し、内保連に提出した。1 月中旬に決定される。

・臨床試験委員会(小林徹委員長) 金理事より【資料 4】p.118

- 手術材料 WG の設置:前回理事会で承認され、日本小児心臓血管外科医会(CHSS)と協議してメンバー選出を進めている。
- シンポジウムに関して:適正使用指針案を厚労省産情課および医療課からの指摘を受け、最終案として理事長決裁した。
- 本学会および CHSS からの早期保険償還に向けての要望書を厚労省保険局医療課に提出(2023/12/13)保険償還価格決定された。
- 2 月中旬 WG 組織化、3 月適正使用指針公開、3 月~4 月使用参加施設募集、4 月使用施設決定・発売のタイムラインを想定している。

・不整脈材料機器委員会(鈴木嗣敏委員長)【資料 4】p.119

- 不整脈のデバイス治療やオペレーション治療に関して小児用を専門的に検討し、基準の整備や学会として交渉できる体制を作るために発足した委員会である。
- 不整脈アブレーション治療関連の機器と、デバイス関連の機器について小児領域の問題点について審議され、引き続き審議される。

・薬事委員会(坂口平馬委員長)【資料 4】p.120

- 「ワーファリン顆粒 0.2%」に関して、令和6年度薬価引き上げの陳情を進めていく上で、本学会から本剤継続提供要望書を提出した。
- バイエル製薬 リバーロキサバンの Fontan 術後症例に対する適応追加が 2023/10/27 の厚労省医薬品第一部会の審議を通過した。

・新しいカテーテル治療のあり方ワーキンググループ(杉山央委員長)

【資料 4】p.121

- 新しいカテーテル手技やデバイスの導入に際しカテーテル治療医だけでなく小児循環器医、心

臓血管外科医と広く意見交換する。

- 内科と外科各方面から新しいカテーテル治療についての有効性および安全性を検討している。

- 経カテーテル肺動脈弁留置術管理委員会(金成海委員長)【資料 4】p.123

- Harmony-PMS は、年間 120 例を超えて順調に進んでおり終了した。

- TPVI レジストリは継続していく体制である。

- HBD for Children 委員会(山岸敬幸委員長)【資料 4】p.125

- HBD TeleCon 実施 2023/09/19, 2023/11/21

- シンフォリウム:小循・CHSS Japan 共同にて適正使用指針固定、厚労省への早期保険償還要望書提出、HBD for children として欧米への展開を進めている。

- ARC-MCS、AMED(含 ARC-PAS)、など活動状況を各委員会で確認している。

- タウンホールミーティング:2024 年 1 月 JCIC 学術集会中(ステントの保健償還に向けての課題)、2024 年 7 月小循学術集会中(シンフォリウム等の外科系診療材料)を予定している。

- 医療安全・倫理エリア

- 医療安全委員会(鈴木孝明委員長)【資料 4】p.127

- 第 60 回小循学術集会の医療安全講習会は、テーマ:心理的安全性と医療安全(仮)、講師:辰巳陽一先生(近畿大学病院安全管理センター・医療安全対策部)の予定である。

- 医療安全調査機構のセンター調査に1名の委員を推薦

- 医療機関における死亡例に対する院内調査委員会に外部委員2名を推薦

- 倫理委員会(前田潤委員長) 瀧間理事から

【資料 4】p.128 参照

- 利益相反委員会(山澤弘州委員長) 瀧間理事から【資料 4】p.129 参照

- ICMJE の COI 書式をもとに学会誌投稿の書式を作成していく。

- 学会誌エリアとも協議して、学会誌投稿の COI を投稿システム内での入力で済むようにアップグレードしていく。

- 未来予想図委員会 山岸理事長から

- 未来予想図委員会(山岸敬幸委員長)【資料 4】p.136

【資料 4】p.136-143 を参照されたい。

- 広報委員会(松井彦郎委員長)

- 小児循環器医療 DX 推進ワーキング(三谷義英委員長) 岩本理事から

【資料 4】p.139

- 学校心臓検診 DX: 行政(文科、厚労、子ども家庭)、日本医師会、業者(匿名加工情報業者、日本予防医学協会)との個別会議
- 委員会セッションの提案(学校心臓検診委員会と共同)(資料1): 学校心臓検診のデジタル化に向けて、行政、企業、医療とで検討する。

9. 懇談事項

● 理事(多領域専門職)の追加について(山岸理事長)

- 山岸理事: 理事に多領域 1 名を加え、現理事 20 名を 21 名とする案を考えている。多領域から理事 1 名を加える場合、本年 7 月総会で、定款の変更を審議することになる。
- 岩本理事: 多領域専門職の会員は活動が盛んであり、委員会も積極的であるため、理事が選出されてしかるべきと思われる。
- 落合理事: 多領域からの理事に賛成である。
- 青木幹事: 理事に多領域から参画させていただけるのはありがたい。理事に関しては多領域内で議論されておらず、仁尾委員長のもと検討されることとなると思われる。
- 山岸理事長: 理事総数を増員して 21 名とする案で、未来予想図委員会で議論する。

● AMED BIRTHDAY 研究班への参加について(犬塚理事) 【資料 5】p.143

- AMED 小林班では日本産科婦人科学会および日本周産期新生児医学会と連携して、学会が管轄しているレジストリ(周産期登録)において、レジストリ情報を施設保有 DPC 情報と連結・統合解析可能な体制整備をすすめ、AMED 小林班で開発した統合アプリおよびデータ抽出アプリのパイロット版が現場での利用が可能な状態となった。
- 医療の質のベンチマーキング・医療政策評価・臨床疫学研究などへ活用できる可能性がされており、本枠組みを小児系の他分野にも応用できる可能性が高い。
- 小児循環器学会のレジストリと DPC 情報の連結を依頼されており、協力したいと考えている。
- 坂本副理事長: 循環器疾患対策のロジックモデルに持ち込める情報ができることを期待する。
- 三谷理事: 小児循環器学会、先天性心疾患においては、日本循環器学会が中心になっているロジックモデルが基本となっているが、本学会としてエビデンスを持ってロジックモデルにしていけるような情報が作っていただけると幸いである。
- 山岸理事長: 各委員に協力が発生する可能性、倫理委員会への申請、リスト作成、の協力が発生する可能性がある。AMED に通った場合、協力をお願いしたい。

● 特に関連の深い学会への参加の専門医単位について

- 増谷理事: この単位は専門医の更新のための単位であり、機構認定になれば皆、参加単位は 1 単位で統一される。数年で終わる旧単位の運用で、特例を設ける意味はあるだろうか。どこまでが関連の深い学会なのか線引きが難しい。一部のみを関連が深いとすると、他は関連が深くないという誤解が生じる懸念がある。現在の規則では 5 単位の応募は行っておらず、正式な手続き

に沿って専門医エリアに 3 単位の申請をしていただき、その際になぜ5単位を要望するかの意見を添えていただいた上で、専門医エリアで審議させて頂きたい。

- 山岸理事長:手続きはその手順でよいと思う。規則の改定・策定などをせず、必要な学会についてだけ、理事会で認定するかどうかを審議する方法がよいと考えている。5 単位の認定については、もともと規則が策定されていない。

●その他

- 全国心臓病の子どもを守る会からの要望について

土井理事:日本心臓病の子どもを守る会から、会員数が減っている、財政的に厳しいため、学会に個人会員・賛助会員になってほしいとの要望があった。

山岸理事長:学会と患者会は経済的には独立しているべきであると考えている。個人的な会員は問題ないと思われるが、学会が直接関与することは難しい。患者会の会員数が減っていることも根本的な問題であり、患者会で考えていただくことではあるが、学会として一緒に検討していくなど考慮していきたい。日本循環器協会という学会よりも企業や財団などと連携しやすい団体があり、心臓病の子どもを守る会からも患者会代表として理事が選出され、連携事業を実施している。日本循環器協会の活動として、経済支援・相談連携の案を検討するのがよい。

中川幹事:入会が少ないのは、SNS で足りている現状も関係している。時代の変化に応じた対応も必要である。

赤木理事:患者会をサポートしている企業もある。守る会の予算配分などの事業の在り方も相談していければと考えている。

10. 閉会

以上をもって本日の議事を終了とし、議長から謝辞があり、閉会した。